

初めての子育て、不安がいっぱい

「waiwai♪カフェ」



「waiwai♪カフェ」は、社会福祉協議会との共催事業として発足しました。

公民館が拠点になり、保健センター、愛育委員会、栄養改善協議会と連携しながら、初めての子育てに不安や悩みを抱えがちな方々が、孤立しないようにと活動を進めています。

前半が「子育て応援メニュー」で、子育ての情報を得たり、学習をする時間、後半が「カフェタイム」で、同じように第一子を育てる親同士の交流の場となります。

愛育委員や地域の乳幼児保育専攻の学生さんたちに託児をお願いし、「カフェタイム」では講師を交えた交流で、日頃の疑問や悩みを出し合っています。

瀬戸公民館 p42 map18

子育てから始める地域育て

「子育て寺子屋～乳幼児編」



核家族化などの影響で、身近に相談相手がなくて、自分の子育てがこれでいいのか悩む親が増えています。

そんな中、NPOの方と一緒に、乳幼児の親がお互いの日々の悩みに共感したり、語り合う中で学び合っています。繰り返し顔を合わせることで関係が深まり、日常の場でも助け合える関係づくりへと発展しています。講座の最終回には、この関係をもっと深めたいと、自主的に交流会を開催しています。この中から、おやこクラブの役員になるなど、地域の中で活躍するママさんも増えています。



上道公民館 p42 map16

分かったのは、子育てに正解はないってこと

「子育て座談会ニッコリーナ」

たった一人で、子育てへの不安や悩みがいっぱい、という方々が増えています。

同じような環境にある仲間や先輩と話したら、少しは気持ちが軽くなるかも…と、講座が終わっても引き続き情報交換や思いを語り合える場所がほしいという声があり、「子育て座談会ニッコリーナ」が誕生したのです。

仲間や子育てOB、子ども好きのお年寄りとの交流を深めることで、子育てに正解があるわけではなく、様々な例を学んだ先に見出せる「私の子育て」があると気づきます。



福浜公民館 p42 map31

地域ぐるみで防災意識を高める

「御津防災キャンプ」



災害が少ない岡山中、一人一人の意識を変えていくのは大変難しいことだと思っています。この草の根的な活動をじわじわ広げて、減災につながる地域づくりをしていきたいと思っています。

御津公民館 p42 map84

東日本大震災以降、岡山市では子どもを含めた地域の防災について取り組み始めています。

御津の場合は、地震よりも水害が起きた時にどのように行動できるかが大切なので、それをポイントに災害を想定した避難学習、道具作り、炊き出し、土嚢作りなどの体験をしました。

まずは、個人個人の防災に対応する力を高めることが必要ですが、参加してくれた中学生の真剣な姿に、地域の大人たちは、若い力に期待できると確信しました。



人と人をつなぎ、過去と未来をつなぐマップづくり

第二次世界大戦中の岡山空襲によって市街地の7割が焼け野原となりました。そのため第六高等学校があった頃の戦前のまちなみとそこに住む人々の暮らしについて、どこにも資料として残っていません。懐ましくも心豊かだったこの時代の暮らしを、ぜひ若い人たちにも伝えていきたいと思い、公民館で活動しています。

近くの家を訪ねて行ったり、六高の卒業生にインタビューしたりして、その頃のエピソードをまとめ、マップにしています。この活動から、世代を超えて出会うことのできた人と出会い、新しいつながりができました。親から聞いた話、自分が覚えていること、まちなみ、その時思ったことなどを聞いていく中で、その人の人生を垣間見る気持ちになりました。そして、自分が何気なく見ている風景には、実に多くの方の様々な思いが込められていることに気づかされました。一人ではなく、公民館に集まる人たちと活動することで、多くの人と出会う、つながりができたことは、まちづくりと同様非常にすばらしいことだと思っています。

中央公民館で活動している 大森 哲也 さん



ESDに
参加して!

はじめまして、どちらから？

「日本語教室」「公民館祭りでの交流」

どの地域でも、大小の企業が外国人労働者の力を借りており、地域住民との相互の理解やつながりづくりがこれからの課題となっています。

御津にも工業団地があるため、公民館で、外国人居住者を対象とした教室を開催して日本語の習得をサポートしています。そのメンバーが公民館祭りなどで自国の文化を紹介することにより、お互いに多様な文化に対する理解を深め、親しく交流する機会をつくっています。

御津公民館 p42 map 34



大丈夫？避難はいっしょに

「多国籍防災会議」



私たちの地域は外国人居住者が多いまちですが、地元の人との接点がなく、お互いの顔も名前も分からないまま暮らしているという状況でした。

もともと災害の少ない地域のため、防災への関心は薄いけれど災害があつてからでは遅いので、日常言語が異なる方々も一緒になって「多国籍防災会議」を立ち上げました。

実行委員からは、「言葉が通じないなら、共通の体験をしてみてもどうか？」と投げかけがあり、同じ地域住民としていろいろな経験を重ねたり話し合ったりしています。



岡輝公民館 p42 map 9

お医者さんはどこ？

「フレンドリー京山」



岡山市内でも外国人居住者が多い私たちの地域。日本語がわからないために、生活上様々な不安があると思います。

そこで私たちは、中でも一番大事な健康のこと、地域の内科、小児科、歯科などを表示した「お医者さんマップ」を作成しました。また小さな子どもを抱えて、不安いっぱいの方々のために、交流の場「ワールドクラブ」を設けました。

それぞれのお国自慢の料理を紹介しながら、ご自身のことも知ってもらう料理教室も開催しています。

京山公民館 p42 map 7



お茶と音楽、いかがですか？

「オープンカフェ『さんもく』」

オープンカフェ「さんもく」は、企画・運営を公民館ボランティアが行っている会です。

地域自慢の名水でコーヒーのサービス(1杯100円)。公民館クラブやご近所さんたちが、楽器や特技を披露し、地域の皆さんにゆったりと午後の時間を楽しんでもらっています。



2011年にスタートして3年、月1回、第3木(さんもく)曜日13:30~15:30に開催しており、毎回40~80名の参加があります。



東公民館 p42 map 28

世代、職業を越えた出会いが地域をいきいきさせる

「ゆったりすと・カフェ」



様々なスキルや人生経験を持った人たちが退職後は地域活動の担い手になれば、地域も活性化するだろうけれど、それまで「仕事人間」として暮らしてきた方々にとって、地域デビューはとてハードルの高いこと。そのクッション役としてこのカフェがあります。

地域との関わりが比較的に弱い中高年男性がスタッフとして活躍することで、地域活動に目を向けるきっかけになったり、人と出会うきっかけになったりしています。

こだわりの随所にあり、生産者や環境に配慮してつくられたコーヒーの生豆を、メンバーが自家焙煎しています。実はその焙煎機もメンバーが作りました。今では、とってもおいしいコーヒー(1杯100円)が飲めると地域外にも評判で、誰でもふらっと立ち寄り、気軽集えるたまり場になっています。毎月第4土曜日 13:30~16:30(入室は16:00まで)に開催しています。

岡南公民館 p42 map 12

今日はどこで何がある？

『集いの場マップ』づくり

核家族化が進み、子どもたちがお年寄りと話したり遊んだりする機会が減っています。そこで地域のサロンや公園、グラウンドゴルフ場など、さまざまな場所でのような遊びや活動が行われているかを調べてまとめました。

写真と講師の紹介もつけているので、地域にどんな活動があって、いつ参加できるのかがよくわかります。

今後は、学校を含めたいろいろな団体に見てもらって世代間交流にも使いたいと思っています。

一宮公民館 p42 map ③



いけてる情報誌「タネピリカ」

「タネピリカ新聞」



岡山のベッドタウン的位置にある建部では、県内外からの転住が増えています。そこで、新しく住民になった方々と地元の人をつなぐ交流の場として、2012年の冬に「タネピリカ」という情報誌の第1号を発刊しました。タネピリカとは、アイヌ語で「今が美しい＝これで良い」という意味があります。

地域の自然、郷土料理、長老の話、転住者の紹介、新規開店の店、映画の話題、とにかく建部のいいところや生活全般の話題が満載です。

公民館を拠点に、企画から編集まで新旧住民の手で行っており、記事もメンバーも多種多様といったところです。

建部町公民館 p42 map ②③

井戸端会議で世界を語ろう

『ESDカフェ』



目標は、通りがかりの人が気軽に参加するカフェ。人の輪と話の輪を広げて、「住むならここ！」と言われるまちづくりに向かってゆったりと、でもしっかりと歩みを進めています。

岡西公民館 p42 map ⑩

私たちの公民館が月一回行っているのは、一言でいうなら「井戸端会議」。しかし、ただの井戸端会議ではありません。

ゲストスピーカーを交えて、環境問題や経済問題、アジア諸国のお国事情から身近な困り事まで、その時々テーマで気軽に話し合います。

先月の参加者が今月はゲストで登場したり、持ち寄ったトマトの美味しさに会話が脱線することもしばしば。ボランティアの方のコーヒーサービスが、参加者とゲストの会話を解きほぐします。



ESDカフェは、“わがまち”づくりの第一歩

『ESDカフェ』

多様な価値観を認めたり、物事を自分のこととして考える力を身につける場として、「ESDカフェ」を隔月に開催しています。

今年のテーマは「公民館」。公民館は何のためにつくられたのか、公民館でどんなことができるのか、まずは一番身近な、日頃公民館を利用されている方々と話をしたいと考えています。

公民館を利用していても、これまで顔を合わせたことがなかった方々が、ESDカフェで出会い、回を重ねて話すことで、新たな動きが生まれようとしています。

立場の違う人々が互いに相手を知ることによって、「こうなったら良いのに…」とか「もっとこんなことができる」という可能性を広げられそうです。



上道公民館 p42 map ⑬

座談会

これからの公民館の活動のために、公民館に関わっている方々を交えた座談会を開きました。公民館との関わり、公民館に望まれるものなど、貴重な意見が伺えました。



座談会出席者（写真左より）
上道公民館職員 吉田さん 岡西公民館 峰松館長 岡西公民館 池田さん 東公民館 松本さん
福浜公民館 美崎さん

*みなさんと公民館との出会いについて教えてください。

美崎さん— 私は結婚してから福浜公民館を利用するようになったんですが、結婚してすぐのときは、公民館の場所も分からなかったんです。子どもが2、3歳になったときに、どこか遊ぶところがないかなと思って探したけど、土地勘のないところを小さな子どもを抱えてうろろろできないって思っていました。そんな時、親子クラブの活動場所が公民館だったので行ってみると、学校の目の前で、家から近いし、本も借りられるし、なんだかいろいろしているってことが分かって、今ではヨガのクラブ講座と子育て講座に参加しています。

池田さん— 岡西公民館に初めて来てから1年くらいのビギナーです。毎回迷子になるくらい、公民館は奥まった場所にあって、それが逆に大好きになった理由です。

岡西公民館をはじめて利用したのは、「坪田譲治の作品から故里を考える」という講座への参加です。私は坪田譲治に関する知識は、児童文学者だというくらいしかなかったんですけど、その児童文学への入口が写真というのがとてもおもしろいな

と思って、学区外に住んでますが参加しました。文学っていう紙の上の1点のものが、「まち」っていう場に出たり、写真っていう平面にいたり、大きく多方面に広がっていったのがとても面白くて、その後も参加させてもらっています。

松本さん— 男性の場合は、勤めや単身赴任とかで地域社会とのふれあいがなかなかないんですが、ちょうど64歳でリタイアしたときに、これまでの自分を見つめなおす自分史講座に参加しました。その後、写真の整理などいろんな整理もひと段落して、カルチャー教室とかいろんなところに行っていました。前々から行きたかった公民館へ行ってみようということで、東公民館にお伺いしたのがきっかけです。

*現在の活動について教えてください。

美崎さん— 子育て講座に参加していて、講師の話とグループディスカッションだけでは話し足りないと感じてました。保護者同士、きっかけをつかむまでに時間もかかるし、子どもがいると母親同士がゆっくり交流する時間がとれなくて、仲良くなる前に終わってしまうという残念な思いがありま

した。身近な公民館にそういう場所があればいいのと思って、公民館の職員さんに相談したところ、今の「子育て座談会ニッコリーナ」が実現しました。

公民館が作ってくれたチラシやポスターを持って、赤ちゃん相談のときに声かけしたりして、ポロポロと参加者も増えてきました。1回しか来ない人もいれば、ずっと来てる人もいます。テーマは、そのとき思ったことをしゃべっています。おしゃぶりが気になるとか、アレルギーのこととか…

松本さん— 公民館の利用は女性が多いように思いますが、東公民館は、どちらかというとも男性もかなり多いと思います。

最初は、ウォーキングマップづくりに参加しました。地域を1年間ウォーキングして「幡多八景」としてまとめました。それが大きなきっかけになって、もっともっと地域のことを知り、地域とのふれあいも大切だと感じて、今度は三世代交流ができるような何か主催講座が公民館でできないかと、そのときの職員に相談しました。

公民館と一番希薄な年代層はどこなのか？と考えますと中学生なんです。中学生になると夏のフリー塾などのボランティア活動で来られるくらいでしょう。彼らにスポットライトを当てて、中学生目線でいろんなことをやったら面白いんじゃないかということで「ふるさと今昔座談会」をやることになりました。今では、公民館の職員以上に私も次第に熱が入ってきて、とても充実しています。やっぱり、情熱を持った人をいかに公民館の方がピックアップして、一本釣りか、二本釣りでも三本釣りでも結構です。撒き餌もやってね、それで進めていくことが、地域の公民館のパワーアップというか、

強みというか…だと思います。

*みなさんにとって公民館はどんなところですか？こうしたらもっとよくなるのに…と思うことはありますか？

美崎さん— ちょっと残念だなってというか、損してるって思うのは、どの年代の方も、場所を知らないっていう人が大半だと思うこと。行きたいけど、場所がわからない。絶対に幹線道路沿いじゃない。看板とかあるけど意外と小さくて、帰り際によくわかるみたいない。利用していると、会う人とは本当に良く会う場所です。

松本さん— 公民館は、使ってみるといいところってわかりますね。公民館に行くと、図書コーナーもあるし、子どもだけでなく、いろんな人が来て、温かく見守る第三者の人たちもいて、いろんな情報交換ができます。クラブ講座や主催講座だけでなく、公民館がまちのキーステーションであるべきだと思います。

地域の町内会、老人会、婦人会、愛育委員会などの地域の組織ごとの活動が、連携して力を発揮できる場所が公民館だと思います。公民館の運営委員会をみると、各学校の先生、地域の代表の方など、何でもできる力のあるメンバーがそろっています。それが、ESDにも、コミュニティづくりにも安全安心などの防災にもつながると思っています。まず公民館で実践すれば、もっと「愛され、親しまれる公民館」になると思います。



吉田さん — 職員もそう思っています。

私は市民の方に「公民館は地域の子どもと大人が出会う場所」って言われました。学校は同じような年齢の人しかいないし、地域の集まりでは似通った人しか来ないけれど公民館はいろんな人が混ざり合う、交わる場所なんだというのを改めて気づかされました。そこをもっと大事にしないといけないと思っています。

その人は、たまたま自分の思いだけで来ているかもしれないけど、何かがそこで化学反応を起こすような仕組みを公民館の職員がしていかなければいけないんだと、その言葉で気づかされました。

池田さん — 公民館ビギナーの私は違和感も持っています。

ものすごく自己充足率が高いっていうか、この中で何を生み出そうとか、この中から何とかしようっていうことをみなさん考えていて、それは素晴らしいことだけど、外の風って結構大事だと思っています。外の人が入ることによって、公民館の空気が揺れるのです。

学生さんや専門家にも活躍してもらって、きちんとした知識を知ること大切で、それができる場所も公民館だと思います。

*今の時代、公民館はどうあったらいいのでしょうか？

松本さん — 勤労世代が公民館に来ないのは、働き盛りの人たちが求める情報がないからではないでしょうか。地域ごとの特色を持った講座を市全域でやってはどうでしょうか？

峰松館長 — 団塊世代の退職の時にはいろいろな



講座を多くの館で開催しました。そのときの参加者は、自分が住んでいるところを全く知らないと言われていましたので、まず地域のことを知ることから始めました。そして複数の館で協働事業や、交流するのもおもしろいかもしれませんね。

美崎さん — 子どもが行きたいといえば、父親も公民館活動に参加すると思います。休みは休みだし、自分だけで参加するのは結構なハードルだと思います。子どもをダシにして、親子で学び、話をする中で、考えることにつながるかもしれません。

吉田さん — そういう組み立ては職員の腕ですね。

松本さん — 話し合う場以外にも、親子でちょっとした料理をするなど、30分でもそんな時間があるといいかもしれません。公民館はそういう機会を与えることで参加が広がるのではないのでしょうか。

池田さん — 共同作業の時間があればいいと思います。お父さんが子どもに教えるような場があると、次にもつながるかもしれませんね。

松本さん — ちょうど、私のような心境というか、

時間のある人がたくさんいると思いますので、その人たちに、公民館活動をより理解していただいて、幅を広げていけたら一番いいなと思っています。

峰松館長 — 私はとにかく公民館が好きで、今も公民館でパタッと倒れて死ねたらいいなと思っているくらい公民館が好きです(爆笑)。民間から試験を受けて入らせていただいているので、一番最初から「人が育ってほしい。人が育つ公民館をつくりたい。」というのはずっと持っています。

こちらから声をかけて、こういうことをしてほしいとお願いするとみなさんボランティアで参加してくれますが、今後は、自分から思ったことを持ち込んでくれるくらいの人が出てきてほしいなあとと思っています。

地域課題は職員が見つけて学びの場を提供しないといけないと思いますが、私は、地域の人、住んでいる人が地域の課題を見つけてほしいと思っています。ESDカフェをしているのも、何か学習する機会ができないかなあと思うきっかけになることを狙っています。うだうだ話している中から、いろんなアイデアが生まれます。ESDカフェをやりながら、いろんな人の声が聞こえるのはとてもありがたいと思っています。

吉田さん — その中で職員は、その人のネットワークや関心を広げて、たくさん手札をそろえておくことが大事だと思います。

一つのことを極めるっていうのもいいかもしれないけど、いろんなニーズがあるということを考えれば、自分自身もいろんなことに興味をもつことも大切だと思います。人やものをどれだけ知っているか、つながっているかが職員として大

切だと思っています。

松本さん — そこで大事なものは、引き出しですね。情報のポケット。公民館によるバラつきをなくすためにも、情報の一元化ができればいいなと思います。そうすると、館の独自性も出しやすいと思います。

あと、地域だけの公民館にしてほしくないんです。他の地区からも来てほしい。池田さんの言う「外の人」にもなりますでしょうか。その人たちが学んだことを持ち帰って、その地域でリーダーとしてつながっていくような気もするのです。

吉田さん — 上道公民館には、活動の様子を映像で残してくれる住民の方がいらっしゃいます。やったことをまとめるだけではなく、事業の中の肝の部分を大切にしながら残してくれるのです。

美崎さん — 職員さんは業務がたくさんあって大変だと思うから、地域にそういう人がいるといいなあとと思います。

松本さん — 岡山市としての財産を残し、共有できると、活動も広がるのではないのでしょうか。

(2013年11月13日岡山市立岡西公民館にて)

